

クイーン・エリザベスでバルセロナからシンガポールまで 新時代のクルーズを体験

会員 柴田典光

コロナ禍で海外旅行には行けず 2 年半以上足止め状態でしたが、やっと海外クルーズに出掛けられる状態になったので、期待と不安の両方を抱えながらクイーン・エリザベスによる地中海、スエズ運河、インド洋横断クルーズに一人旅で挑みました。

第一難関はエミレーツ航空で関西国際空港からドバイ経由でバルセロナまでのフライト。もちろんエコノミー席なので、合計 17 時間のフライトと乗り継ぎはまさに修行僧のように忍耐のいる飛行機旅でした。

バルセロナに着いて最初の関所は乗船 72 時間以内の PCR 検査。バルセロナ空港で検査結果が 30 分後に受け取れる PCR 検査場を見つけましたが、費用は何と 100 ユーロ（約 15,000 円）。ワクチン 3 回以上と PCR 検査で陰性が乗船条件のため、結果が判明するまでドキドキでした。

陰性の結果が出てホッとしながらホテルのチェックインを済ませ、早速夕方にバルセロナの港へ行き、遊覧船に乗って港周辺巡りをしました。港周辺は市民や観光客で溢れ、先ず目に飛び込んできたのが今年 3 月から運航開始したばかりのヴァージン・ボヤージズのバリアントレディ（総トン数 110,000 トン、乗客定員 2,770 人）が出港していくところでした。写真では見ていたものの実物の斬新な船型に惹きつけられました。



次に見えてきたのが高度な排水・排気ガス処理システムでエコシップとして話題になった MSC ビルトゥオーサ（総トン数 181,000 トン、乗客定員 6,334 名）と世界最大客船の記録を更新したワンダー・オブ・ザ・シーズ（総トン数 237,000 トン、乗客定員 5,794 名）。船齢 30 年の日本のクルーズ客船を見慣れているせいかピカピカの新造客船を次々に目にし

て度肝を抜かれました。



翌日はモンジュイックの丘に上り、これから乗船するクイーン・エリザベス（総トン数 90,900 トン、乗客定員 2,081 名）と世界初の LNG クルーズ船として名高いコスタ・スメラルダ（総トン数 183,900 トン、乗客定員 5,200 名）を眼下に目撃。

午後クイーン・エリザベスに乗船するので、午前中に遊覧船に乗り、シップウオッチングをしました。遊覧船は沈没するのではと思うくらい市民や観光客の乗船客がいっぱい乗り、港内クルーズを楽しんでいました。先ず見えてきたのがバイキングラインのバイキング・マーズ（総トン数 47,800 トン、乗客定員 930 人）でした。クルーズターミナル周辺にはバイキング・マーズとクイーン・エリザベスとコスタ・スメラルダの 3 隻が停泊しており、シップウオッチングを楽しめました。

ヨーロッパではクルーズ人気はコロナ前と同じくらいに戻っているようで、バルセロナ発着の地中海クルーズで各社が続々と新造船を運航しており、乗船率も良くコロナ禍から完全に抜け出しているような盛況ぶりが感じられました。



さて第二の難関が乗船前のチェック。コロナ前と比べて変わったと感ずるのが乗船前の手続きです。従来は乗船前にパスポートの内容や決済用のクレジットカード番号やID用の写真撮影などはクルーズターミナルで行なわれていましたが、これらの手続きを自宅で行なわなければならない、パソコンが不得手な私は悪戦苦闘の末、やっとのことで完結し送信しました。内容審査されてOKとなってQRコードが載ったボーディングパスが日本に居ながらにして発行されました。

乗船前審査では3回以上接種したことを証明するワクチン接種証明書と72時間以内のPCR検査の陰性証明書が必須条件でしたが、その分安心して乗船できました。

乗客定員80%の28ヶ国から来た1,600名が乗船。内訳はイギリス人838名(52%)、オーストラリア人539名(34%)、アメリカ人56名(4%)、ドイツ人25名(2%)で日本人は私1人だけでしたが、日本人スタッフが3名乗船しており、とても助かりました。乗船後7日間はマスク着用が徹底され、多国籍の乗船客がほぼ100%遵守しているのには感心しました。

クルーズ期間中は警戒レベル2のままでしたが、抗原検査が2回実施(無料)される予定が1回だけで済み、マスク着用は乗船客の反発も相当あったようで、徐々に緩和されました。乗組員は甲板要員も含めて一貫してマスク着用は徹底されていました。

クルーズ中の楽しみのひとつが船長主催のカクテルパーティですが、ソーシャルディスタンスの観点から話題の女性船長主催によるカクテルパーティは行われず、代わりにスパークリングワインのボトル1本が提供されました。

シンガポール下船する際に必要なシンガポール上陸許可証申請とインドネシアのバリ税関申告でもウェブサイトから税関申告を記入するのが前提でした。

乗船客の殆どがシニア層でスマホやパソコンが苦手なため、フロント窓口はスマホ相談所と化し、初歩的な操作方法などで問い合わせに来るため人が殺到し大混乱になっていました。これからはスマホやパソコン操作に慣れていないと一人では海外クルーズには行けなくなりそうです。

とにかく21日間というロングクルーズにもかかわらず、懸念されたコロナパンデミックなどは発生せず、予定通りの航程でクルーズを楽しむことが出来て本当に良かったです。

本クルーズはバルセロナからシンガポールまでクルーズ日数20日間とシンガポールからシドニーまで15日間の合計35日間わたるロングクルーズですが、長期間のクルーズでも安心安全にクルーズできることを立証する試金石になったと思います。

クイーン・エリザベスは来春日本発着クルーズを予定しており、ウエイターは着々と日本語の勉強をして日本発着クルーズを期待していました。

外国クルーズ客船による日本発着クルーズはコロナ禍以来全滅状態ですが、来春のクイーン・エリザベス日本発着クルーズこそは是非とも実現して欲しいものです。そうしないと日本はクルーズの世界から置いてきぼりになってしまうと思います。